

平成29年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

- 日時：平成30年3月19日（月） 10:00～12:00
- 場所：大野市役所 2階大会議室
- 議事：(1) 平成28年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要
(2) 平成29年度の取り組み状況
(3) 水源地域ビジョン意見交換会、これからの水源地域ビジョンについて

1. 平成28年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について

平成28年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要については、ホームページにも公開していることを事務局より説明を行った。

2. 平成29年度の取り組み状況について

平成29年度の取り組み状況について事務局が説明を行い、各機関が補足した。主な質疑応答及び意見は以下のとおりである。

(関係団体) 大野の豊かな自然を体験してもらい取り組みをしている。現在の活動を次の世代へどのように繋げていくか、プレーヤーを育てたいが、人材不足が課題である。

→ (委員長) 活動を継続していくための世代交代を上手にやっていくことは難しい。ビジョン委員会の場で活動の情報を共有し、活動団体や関係機関が協力や支援をしながらやっていければよい。

→ (委員) イベントがきっかけとなって、活動がうまく継続している事例もある。もりみずカップ少年サッカー大会は、水源地域持ち回りの最後の全国大会が中島公園で開かれ、それ以降、大会旗を優勝旗にして現在まで10回続いている。九頭竜の上流域で地域の人々がイベントを起こしたら、続いていくものがあるのではないかと。きっかけを作っていくことも重要である。

ダム管理者としては、ダム管理から離れた取り組みを増やすことは難しいが、できる限りの支援はしていきたい。

(委員長) きっかけや、きっかけを繋げる役割が大切である。ビジョン委員会がプラットフォームになっていけばよい。

→ (委員) 来年度も意見交換会を続けられればと思う。

(副委員長) 福井県カヌー協会の理事をやっている。国体プレ大会が行われ本大会に向けて良い準備ができた。NPO 法人九頭竜自然学校は解散したが、そのメンバーで九頭竜カヌークラブをつくっており、夏の一時期に、下半原で体験教室を実施している。今後も実施していく予定である。活動を楽しむことの原点にすることが大切である。

3. 水源地域ビジョン意見交換会、これからの水源地域ビジョンについて

水源地域ビジョン意見交換会、これからの水源地域ビジョンについて事務局より説明を行った。主な質疑応答及び意見は以下の通りである。

(委員長) 水源地域ビジョンの進めていくにあたり、活動の担い手が少なくなっている。行政はどのような役割を担うことができるのか。

→ (事務局) ダム管理者としてのいろいろな協力や場所の提供はできる。人材不足の解消のためイベントの合同開催も進めているところであり、どこまでお手伝いできるかを考えている状況である。

(委員長) ビジョン委員会は1年に1回しかないので、そこに行けば人が繋がったり、情報を共有できるプラットフォームが必要である。この委員会がプラットフォームになることが望ましい。

→ (委員) どこまで行政でできるかについては、人、予算、場所の課題があり特に予算面での課題が大きい。本来ダムは治水や利水が目的の構造物であるが、最近では巨大建造物としての要素や雄大な自然に注目が集まっている。ビジョン委員会がプラットフォームとなることは難しいが、意見交換やお見合いの場となればよい。春から秋にインフラツアーを実施することになった。民間会社が行うが、管理者はダムの案内をする。民間会社は事業機会として、管理者はダムの役割を理解してもらうことができ、双方にメリットがある。ダムの様々な形での利活用を試してみたい。

(委員) ミズベリングを鳴鹿大堰で実施した。上流でもできないか理事会で話あっている。場所の問題や JR と連携などの課題があり、ビジョン委員会がそのような課題解決の場となるとよい。夏に九頭竜の上流でミズベリングを実施したいと考えているので、ご協力をお願いしたい。カヌー国体会場跡地を今後も活用したいが、カヌー利用のための水量を増やすことを北陸電力に協力をお願いしたい。

(委員) ホロッサ！がオープンしたが、まだヨチヨチ歩きの状態である。大野の化石と九頭竜川は表裏一体の関係である。カヌー会場の目の前にあるので、カヌーやミズベリングと連携ができればと期待している。

(委員) 岐阜県内のサービスエリアの道路案内や白鳥地区の道路標識が、中部縦貫自動車道の永平寺大野道路開通を反映したものとなっていない。大野へのルートを示すことができれば中京圏へのPRの良い機会となる。

→ (事務局) 県外の情報を確認して、対応したい。

(関係団体) 国際観光振興機構特別顧問のデービッド・アトキンソン氏が言われている「日本国土の80%の面積を占める森林資源が活用されていない」という言葉が気になっている。大野の自然をPRしていきたい。4月からJR西日本と協力して九頭竜湖でカヌーを実施する予定である。昔あった集落などの歴史を解説していきたい。地域の人と歴史解説のツアーをやっていきたい。

→ (委員長) すばらしい考えであり、ぜひとも続けてほしい。

(委員) ダムへ人を運ぶ方法が課題である。自家用車を利用しない人の移動手段を考える必要がある。広域の観光連携を強化していく必要がある。大市街地から和泉地区、九頭竜湖を巡る観光案内を今年度やったが、参加者は静かな場所に感動していた。紅葉シーズンは人がたくさん集まるので、交通手段を検討することが必要である。

→ (事務局) ミズベリングでも飲酒した人の対応をどうするかが課題である。

(副委員) ますます活動が活発になっている。皆で協力して次の世代へ引き継ぐ準備もして欲しい。

4. その他

(1) 副委員長から

ますます活動が活発になっている。皆で協力して次の世代へ引き継ぐ準備もして欲しい。

(2) 大野市長あいさつ

様々な関わりをもって取り組みをしていただき感謝している。九頭竜ダムができて水害のない安全な状況が続いており、ダムの有り難さが薄れている。管理開始 50 周年にあたり、「当たり前」を「ありがたい」に変えていきたい。ダム湖に沈んだ集落の人口や世帯数を調べて子ども達に教えてあげたい。

5. 閉会

以上